

短期予報解説資料 2025年12月28日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5340m付近で-33℃以下の寒気を伴うトラフが日本海を東進。西～北日本には850hPaで-6℃以下の寒気が流れ込み、北～東日本の山地では3時間で5～10cm前後の降雪を観測。雷を検知。
- ② 東シナ海の高気圧が西～東日本に張り出し、南西諸島付近は気圧の谷となって強い雨を解析。
- ③ 発達した低気圧がオホーツク海北部をゆっくり西北西進。
- ④ ②の気圧の谷や高気圧の南縁及び②の高気圧と③の低気圧の間で

は気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高く、北日本ではしけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは28日朝にかけて日本の東へ進む。上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。西～北日本では28日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ② 伊豆諸島付近には地上のシアーラインが顕在化し28日夜にかけて東海道沖へ西進するが、29日は東進して夜には日本の東で不明瞭化する。シアーラインの周辺では大気の状態が不安定となる所がある。東日本では29日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 29日から30日朝にかけて、地上のシアーラインが日本海から北日本へ進む。シアーライン前面の西～北日本で850hPa 平年差+5℃以上の下層暖湿気が流入し大気の状態が不安定となる。西日本では29日にかけて、西～北日本では30日にかけて、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。また、下層暖湿気や降水の影響で雪解けが進む。東～北日本の多雪地では30日にかけて、融雪やなだれに注意。
- ④ 1項②の高気圧は、30日にかけて西日本から日本の南に移動し、南西諸島に下層暖湿気が流入する。また、29日夜には500hPa 5700m付近の正渦度移流に対応して沖縄の南で低気圧が発生し、30日にかけて日本の南を東北東進する。下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、強い雨や激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では30日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ⑤ 1項②③による気圧の傾きは次第に小さくなるが、2項③のシアーライン付近では、やや強い風や強い風が吹いて波が高くなる所がある。東～北日本では29日にかけて、強風や風雪、高波に注意。北日本では28日は、風雪に注意・警戒。また、南西諸島では、高気圧の南縁や2項④の低気圧の影響で引き続き波の高い状態が続く。南西諸島では30日にかけて、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：沖縄100mm。② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報基準以上)はない。③ 波浪(明日まで)：北海道4、東北・北陸・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図